

GTEC スコアと CEFR レベル関連付け 調査報告

～Pre-A1/A1 レベル追加調査～

2018年1月

A1 レベルの閾値設定について

背景：

GTEC では、2016 年度 2 月に CEFR レベルの関連付けを行い、A1/A2、A2/B1、B1/B2、B2/C1 の閾値を設定した。その際は A1 の下限値を設定していなかった。2017 年に発信された中央教育審議会教育振興基本計画部会の『今後 5 年間の教育政策の目標と主な施策群（ロジックモデル）』によると、社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する施策の 1 つに、「英語をはじめとした外国語教育の強化」が掲げられ、その測定指標の候補として「中学校卒業段階で CEFR の A1 レベル相当（英検 3 級等）以上」ということが挙げられていた。また、更新された CEFR のディスクリプタ（Council of Europe, 2017）に Pre-A1 の記述が新たに入ったこともあり、Pre-A1 レベルと A1 レベルの閾値設定を行う必要があると考えた。

調査手法や調査の流れは、2016 年度と概ね同様で、リスニングとリーディングでは Bookmark Method を、スピーキングとライティングでは Contrasting-Group Method を用いた。また、分析において、①CEFR 各レベルのディスクリプタを見ながら、Borderline Person の英語力のイメージを議論して一致させた。② 2 名ずつ 3 グループの分科会に分かれ、資料を見ながら分析を行い、仮閾値を設定。③再度全体会として集合し、3 グループ合同での協議。全員で合意のもと閾値決定、という手順を採用したことも概ね同様であった。但し、ライティングに関しては、分析の 4 技能目に当たったため、おおよそ全体の判断基準もそろっていると考えたため、②の工程を省略した。

使用データ：

今回は、CEFR の Pre-A1 と A1 レベルの閾値設定ということもあり、GTEC シリーズ Advanced, Basic, Core タイプとあるうちの、最も易しいレベルである Core タイプのテスト項目および解答パフォーマンスデータを資料として使用した。リスニングとリーディングは、2016 年 7 月本番試験で出題した GTEC Core タイプを使用し、スピーキングとライティングは、2017 年 7 月本番試験の解答パフォーマンスデータを使用した。

分析メンバー：

2016 年度の分析メンバーのうち、4 名が今回の分析を行った。GTEC の作問・制作に関わっているメンバーも参画し、問題形式、採点基準等の説明を行ったり、質問に答えたり、議事録を取ったりする補助作業を行った。2016 年度の調査では、2 名ずつ 3 グループに分かれて分科会を行ったが、2017 年度の本調査では、2 名ずつ 2 グループで分析を行った。

<リスニング Pre-A1/A1>

◆ディスクリプタの確認

[OVERALL LISTENING COMPREHENSION]

A1

- ・ Can follow speech that is very slow and carefully articulated, with long pauses for him/her to assimilate meaning.
- ・ Can recognise concrete information (e.g. places and times) on familiar topics encountered in everyday life, provided it is delivered in slow and clear speech.

Pre-A1

- ・ Can understand short, very simple questions and statements provided that they are delivered slowly and clearly and accompanied by visuals or manual gestures to support understanding and repeated if necessary.
- ・ Can recognise everyday, familiar words, provided they are delivered clearly and slowly in a clearly defined, familiar, everyday context.
- ・ Can recognise numbers, prices, dates and days of the week, provided they are delivered slowly and clearly in a defined, familiar, everyday context.

(Council of Europe, 2017, pp. 55)

[LISTENING TO THE RADIO AND AUDIO RECORDINGS]

A1

- ・ Can pick out concrete information (e.g. places and times) from short audio recordings on familiar everyday topics, provided they are delivered very slowly and clearly.

Pre-A1

- ・ Can recognise words, names and numbers that he/she already knows in simple, short recordings, provided that they are delivered very slowly and clearly.

(Council of Europe, 2017, pp. 59)

- Pre-A1 は、面と向かって語り掛けられ、高い頻度で出会うフレーズであれば理解できるというレベルである。
- Pre-A1 は、understand だけではなく recognise という単語でも表現されているように、意味を理解するまでには及ばず、知っている単語を「自分の頭の中にある単語やフ

フレーズとマッチングしている」レベルにとどまっている。

- Pre-A1 は、ジェスチャーや繰り返しの説明という補助を伴って理解できるのに対し、A1 は、それらの補助がなくても、ゆっくりと、またははっきりと話されれば理解できるレベルである。

◆各グループ別判定結果の検討

グループ B	グループ C
68 以上	53 と 63 の間

全テスト項目の中で、単語やフレーズの聞きとりの力を測定するパート A が Pre-A1/A1 の閾値を決めるのにふさわしい項目と判断し、各問題について詳細に検討し、その裏付けを取る形で、パート B、パート C の項目に関しても確認を行った。

グループ B

パート A のスコア 63 以下のテスト項目では、使用されている語彙も平易であることに加え、言語処理の観点においては、いずれも比較的シンプルで、単語レベルの理解で正答できるため、Pre-A1 と判断した。

一方、スコア 68 以上の項目では、各選択肢で主語がそれぞれ異なっていたり、1 語単位ではなく、フレーズ単位で理解しなければ正答にたどり着けない項目であると判断したため、スコア 68 からが A1 に相当するとした。パート B のスコア 69 以上の項目や、パート C のスコア 74 以上の項目も情報の処理を必要とする判断した。合わせて、GTEC Junior のテスト項目を確認すると、スコア 67 のテスト項目は、3 つの選択肢とも主語が同じで、使用されている各選択肢のそれぞれの動詞も **listening, writing, going** と、比較的理解しやすいものであったため、この項目は Pre-A1 レベルでも正答にたどり着けると判断した。同じく GTEC Junior のスコア 79 のテスト項目では、**having lunch** というフレーズが使用されており、**have** という動詞を「食べる」と判断する力は A1 レベルであろうと判断した。別のスコア 79 のテスト項目は、3 つの選択肢それぞれ主語が異なるため、処理すべき情報が多く、こちらも同様に A1 レベルであろうと判断した。上記の理由から、スコア 68 以上を A1 と判断した。

グループ C

パート A の項目をスコアの低い順に見ていったところ、**door** や **desk** などカタカナとして日本語で使用されている単語が散見され、概ね発音も明瞭であるため、Pre-A1 レベルでも理解できると考えた。

スコア 68 のテスト項目で、「**play the piano** ピアノを演奏する」という表現は知ってい

でも、同じ「play + the 楽器」で表現される「play a flute フルートを演奏する」は定着しづらいため、このあたりで Pre-A1 と A1 の境目があるのではないかと考えた。また、スコア 78 あたりになると、出題される英文が長くなり、処理の負荷がかかるため、このあたりは A1 であると判断した。

全体会

各グループの判断とその根拠を共有した。スコア 68 は、パート A の 3 つの選択肢の主語がそれぞれ異なるため、理解により負荷がかかるという議論になった。両チームの見解を踏まえ、スコア 60～70 前後に Pre-A1 と A1 レベルのボーダーがあると考えた。また、GTEC のリスニングとリーディングは選択式の問題であり、特に、パート A は、3 択の問題であるため、当て推量で解答した受検者が一定数いるということも考慮すべき点であるという議論になった。各グループが、スコア 63 よりもスコア 68 前後のテスト項目から A1 としての特徴が見えてくると合意したため、スコア 70 が Pre-A1 と A1 の閾値となるという結論に至った。

<リーディング Pre-A1/A1>

◆ディスクリプタの確認

[OVERALL READING COMPREHENSION]

A1

・ Can understand very short, simple texts a single phrase at a time, picking up familiar names, words and basic phrases and rereading as required.

Pre-A1

・ Can recognise familiar words accompanied by pictures, such as a fast-food restaurant menu illustrated with photos or a picture book using familiar vocabulary.

(Council of Europe, 2017, pp. 60)

[READING CORRESPONDENCE]

A1

・ Can understand short, simple messages on postcards.
・ Can understand short, simple messages sent via social media or email (e.g. proposing what to do, when and where to meet).

Pre-A1

・ Can understand from a letter, card or email the event to which he/she is being invited and the information given about day, time and location.
・ Can recognise times and places in very simple notes and text messages from friends or colleagues, for example 'Back at 4 o'clock' or 'In the meeting room,' provided there are no abbreviations.

(Council of Europe, 2017, pp. 61)

- Pre-A1 では、ファストフードレストランのメニューのように、写真やイラストなど、ビジュアル的な補助があるという前提で、慣れ親しんだ単語を認識できるレベルである。一方で、A1 レベルでは、必要に応じて、慣れ親しんだ名前や単語を「メッセージ」単位で理解できる。
- Pre-A1 では、カードや E メールの中にある情報のうち、「日にち」や「時間」などの、ごく簡単な情報がつかめるにとどまり、より長い「メッセージ」を理解できるのが A1 である。

◆各グループ別判定結果の検討

グループ B	グループ C
60 以上	35 か 40 以上

パート B のスキヤニング問題が、視覚的な情報を含み、Pre-A1 や A1 のディスクリプタにある媒体と近く、文脈理解の力までは測定しない項目も含まれているため、Pre-A1/A1 の閾値設定に適していると判断し、基本的にパート B の問題をスコアの低い方から順に分析していった。

グループ B

パート B の問題は、いずれも出題文が英文で出されているため、Pre-A1 の受検者には何が問われているかを把握すること自体が難しく感じられると考えた。しかしながら、その中でもスコア 35 やスコア 38 のテスト項目は、出題文の中で使われている単語と本文の中の単語をマッチングさせることで Pre-A1 でも比較的容易に正答にたどり着けると考えた。スコア 50～60 前後は、A1 レベルで知っている単語から推察して解答できるかどうかという印象で、このあたりがボーダーラインとなると想定した。スコア 68 のテスト項目は、素材文中で書かれていることと、質問で問われていることがパラフレーズされているため、その理解を要する分、単語レベルのマッチングだけでは正答にたどり着くことが難しいと考え、確実に A1 であると考えた。最終的にスコア 60 以上が A1 であると判断した。

グループ C

スコア 68 のテスト項目は、素材文中の語数が多いため、スキヤニングを行うことが Pre-A1 レベルにとっては困難な課題であると判断した。さらに、質問文がパラフレーズされており、文の理解が必要で、その理解ができていないと正答にたどり着きにくいいため、A1 レベル以上の英語力を要すると考えた。スコア 52 あたりでは、質問文の内容がやや難解で、単語レベルでは理解しにくいいため、Pre-A1 レベルを超えていると判断した。つまり、スキヤニング課題の困難度を左右する要因として、テキストの質、量、タスクなどがあったということで、このスコア 38 に関しては、テキストから該当部分を容易に見つけることができると判断したことから、それがぎりぎり Pre-A1 で解けるレベルであると考え、その前後にあるスコア 35 か 40 に閾値がくるだろうと判断した。

全体会

各グループの判断とその根拠を共有した。スコア 68 は、質問文と素材文の該当箇所の英文がパラフレーズされていて、単語を頼りに正答にたどり着くことが難しいため、A1 レベル以上であろうということ合意した。

Pre-A1 はまだ語彙体系が形成されていない段階で、授業で習った簡単な単語を知っているレベル。色や月の言い方などもすべては知らない状態であることが共有された。そのようなレベルでも、スコア 38 は、「スポーツについて話すのは誰か？」という質問で、選択肢が人の名前のため、文レベルでの理解ができなくても、選択肢中の人の名前と素材文中のスポーツの欄にある人の名前をマッチングすることで正答にたどり着けると考えた。スコア 52 のテスト項目についても、「11 月にクラブのメンバーがするスポーツは何か？」という質問で、選択肢がスポーツ名のため、英文中の月の名前とスポーツ名をマッチングさせることで、Pre-A1 レベルでも正答にたどり着けると考えた。

スキニングの課題は、一般的に Pre-A1 の学習者が意味を理解して取り組むのには困難な課題である一方、テスト内の課題をこなすという意味においてはできてしまうこともある。その具体的な状況がこの 1 つ前の段落で述べられているようなものであるとメンバーの中で合意した。スコア 52 と 68 の間にあるスコア 60 に Pre-A1 と A1 レベルの閾値があると判断した。

<スピーキング Pre-A1/A1>

◆ディスクリプタの確認

[OVERALL SPOKEN PRODUCTION]

A1

- Can produce simple mainly isolated phrases about people and places.

Pre-A1

- Can produce short phrases about themselves, giving basic personal information (e.g. name, address, family, nationality).

(Council of Europe, 2017, pp. 69)

[SUSTAINED MONOLOGUE: DESCRIBING EXPERIENCE]

A1

- Can describe him/herself, what he/she does and where he/she lives.
- Can describe simple aspects of his/her everyday life in a series of simple sentences, using simple words and basic phrases, provided he/she can prepare in advance.

Pre-A1

- Can describe him/herself (e.g. name, age, family), using simple words and formulaic expressions, provided he/she can prepare in advance.
- Can say how he/she is feeling using simple words like 'happy', 'tired', accompanied by body language.

(Council of Europe, 2017, pp. 70)

[PUBLIC ANNOUNCEMENTS]

A1

- No descriptors available.

Pre-A1

- No descriptors available.

- Pre-A1 は、自分自身の基本的で個人的な情報（名前や年齢など）を単語レベルや定型表現で言えるにとどまり、A1 レベルになると自分が何を（している）か、どこに住んでいるかなど、生活上の特定の側面について言えるようになる。

- Pre-A1 は、シンプルな定型表現なら言えたり、happy や tired などの簡単な感情表現ができたりするレベル。

◆各グループ別判定結果の検討

グループ B	グループ C
80 以上	80 以上

パート A は音読の問題であり、与えられた英文を読み上げる問題のため、分析対象にはならないと判断した。ある程度まとまりのある発話が見られる、パート C（ストーリーを話す問題）やパート D（意見と理由を話す問題）の受検者の書き起こしデータをスコアの低い方から確認することにし、必要に応じて、パート B（質問に対して答える）の問題を参照する手順で分析を行うことにした。

グループ B

スコア 80 台の答案に、I want ～を使ったフレーズや、because や but などを使った発話が散見され、ある程度文で話せている、または話そうとしている努力が見られた。スコア 80 の答案から、フレーズレベルではなく、センテンス単位で発話ができていることがわかった。パートごとに見てみると、スコア 50 台あたりに、センテンス単位での発話が可能な層とフレーズレベルの発話に留まっている層のボーダーが存在するように思えたが、パート D を見ると、スコア 80 あたりで自分の身の回りについての英文をいくつか発しており、このあたりから A1 レベルであると言える判断した。したがって、スコア 80 が閾値と判断した。

グループ C

Pre-A1 は、フレーズレベルの発話を中心という観点で確認していくと、スコア 60 台あたりはそれに該当する解答であった。そこで、スコア 80 以降については、パート B の問題の解答データについても実際に聞いてみた。さらにスコア 90 以降は、発話量も多くなり、確実に A1 であると確認できた。再び、スコア 60 からスコア 80 のあたりを確認すると、スコア 60 台では、発話の内容が意味を成しておらず、聞き手にかなり負荷がかかると判断できた。スコア 80 台になると発話が意味を成しはじめ、Generative capacity、つまり言語を生成する能力が身についてきていると考えた。

全体会

各グループの判断とその根拠を共有した。いずれのグループもスコア 80 であるとの判断であった。グループ B からは、スコア 80 以降は、ただ知っている語やごく短い表現を並べ

ているのではなく、自らの意図を伝えるために、持っている言語知識を活用し発話している様子が出始めている点について改めて指摘があった。グループ C も、スコア 80 以降は思いついた単語を並べるという状態ではなくなってきたため、スコア 80 と判断したとのことであった。以上の議論を踏まえて、A1 の閾値は 80 と判断した。

<ライティング Pre-A1/A1>

◆ディスクリプタの確認

[OVERALL WRITTEN PRODUCTION]

A1

- ・ Can give information in writing about matters of personal relevance (e.g. likes and dislikes, family, pets) using simple words and basic expressions.
- ・ Can write simple isolated phrases and sentences.

Pre-A1

- ・ Can give basic personal information in writing (e.g. name, address, nationality), perhaps with the use of a dictionary.

(Council of Europe, 2017, pp. 74)

- Pre-A1 は、自分自身に関する基本的な情報などを、文ではなく単語やフレーズで書けるレベルで、A1 は複数の文を生成できるレベルである。

全体会

4技能めの分析となり、ある程度、Pre-A1 レベルと A1 レベルの間に位置する英語力の目線は合ってきていたため、グループ合同での討議となった。単語レベルから文レベルの答案へと、解答に質的な変化が生じる困難度を特定するため、スコアの低い答案から順に参照したが、スコアの低い答案においても、おおよそフレーズレベルではなく文の形では記述できていた。これは、エッセイライティングというタスクであるということが理由の1つに挙げられ、スコアの低い受検者においても自身が持ちうる英語力を駆使して英文を生成していた。また、授業で何回も学習した文であれば、文の形で書けるのであろうと判断した。スコア 60 以上になると、because などの接続詞を使用しており、文と文のつながりがある英文も書けていた。スコア 60 以降は formulaic な表現から抜けて、自分で英文を作成できるようになっており、このあたりに閾値があると判断し、スコア 60 が A1 の閾値であると判断した。

結果：

結果として、技能ごとの A1 の CEFR レベル閾値は、それぞれ Reading 60、Listening 70、Writing 60、Speaking 80、Total では 270 という結果になった。

CEFR Level	GTEC				
	Reading	Listening	Writing	Speaking	Total
B2	280	290	300	320	1190
B1	220	220	240	280	960
A2	150	160	190	190	690
A1	60	70	60	80	270

参考文献

中央教育審議会教育振興基本計画部会 (2017). 『今後 5 年間の教育政策の目標と主な施策群 (ロジックモデル)』 以下より入手可能

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo14/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2017/08/29/1394796_02.pdf

Council of Europe. (2017). COMMON EUROPEAN FRAMEWORK OF REFERENCE FOR LANGUAGES: LEARNING, TEACHING, ASSESSMENT. COMPANION VOLUME WITH NEW DESCRIPTORS. 以下より入手可能

<https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/168074a4e2>

付録

1. GTEC 問題概要・実施時間
2. GTEC 問題の特徴および問題構成

1. GTEC 問題概要・実施時間

GTEC 受検タイプについて

GTEC は Advanced、Basic、Core の 3 つの難易度でテストを提供している。学年による受検タイプの制限はないが、下記に受検に適した目安の時期を記載している。

中1	中2	中3	高1	高2	高3
				Advanced	
			Basic		
Core					

実施時間

	Core	Basic	Advanced
Reading	32分		45分
Listening	18分		25分
Writing	20分		20分
TOTAL	70分 ※1		90分 ※2

※1 Coreタイプは問題冊子がReadingで1冊（32分）、Listening、Writingで1冊（38分）となっており、分割実施が可能です。

※2 Advancedタイプ、Basicタイプは問題冊子がReadingで1冊（45分）、Listening、Writingで1冊（45分）となっており、分割実施が可能です。

	Core	Basic	Advanced
Speaking		25分※3	

※3 進行の具合によって前後する可能性があります。

http://www.benesse-gtec.com/fs/about/ab_outline

2. GTEC 問題の特徴および問題構成

【リスニング】

1. 実践的な言語テストとして、リスニングの出題割合を重視

テスト全体の中でリスニングの占める所要時間は2~3割、問題数では5割前後とリスニングの出題割合を重視しています。十分な出題数の中で、高い精度でリスニング力を測ることができます。

2. 即応性、情報選択、要点理解など多角的にリスニング能力を測定

正確な聞き取りだけでなく、素早く反応して答える力や、目的に応じて必要な情報を選択して聞き分け、要点を理解する力など、多角的で実用的なリスニング能力を測定します。

3. 現実の場面や状況設定で使える課題（タスク）を出題

英語を聞いて何かをしなくてはならないような現実の場面や状況設定の中で使える課題（タスク）を出題に取り入れることで、単なるテストのための問題ではなく、受験者が問題を通して英語を使っている実感を得ることができるようになっています。

テスト内容	Core		Basic		Advanced	
	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
A 写真・イラスト説明問題	8	4	10	6	10	6
B 会話応答問題	8	4	10	5	10	5
C 課題解決問題	8	5	10	8	10	8
D 要点理解問題	8	5	10	6	10	6
TOTAL	32	18	40	25	40	25

【リーディング】

1. 英文読解の能力を多角的に測定

語い・語法レベルの読解基礎力、速読的な読解力、そして精読的な読解力などの各分野に着目して構成された多角的な出題です。

2. 速読的な読解力では、特に情報検索、概要把握する力が焦点

速読的な読みにおいては、短時間の中で必要な情報を引き出す情報検索 (scanning)の力をみる問題、そして全体を大づかみして概要を理解する概要把握(skimming)の力をみる問題を出題しています。

3. 海外在住のネイティブスピーカーの執筆者による「リアル」な英語素材文

海外在住のネイティブスピーカーの執筆者が作成した問題素材文原案を、日本国内の有識者を交えて GTEC for STUDENTS編集部が吟味することで、「リアル」な英語素材でかつ日本の中高生の英語力測定に適した出題を行っています。

テスト内容	Core		Basic		Advanced	
	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
A 語い・語法問題	10	5	12	6	14	7
B 情報検索・概要把握問題	10	12	12	14	14	14
C 要点理解問題	8	15	12	25	15	24
TOTAL	28	32	36	45	43	45

【スピーキング】

Part A Reading Aloud

[サンプル問題 →](#)

音読

対話の応答文を読み上げる形式の出題で、状況や英文を理解したうえで、正確な発音で音読ができるかどうかを診断します。

問題数	準備時間	解答時間
6問	Advanced : 各5秒 Core : 各10秒	各10秒

Part B Listening and Responding

[サンプル問題 →](#)

質問を聞いて応答する

図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取ったうえで、適切に応答する力があるかどうかを診断します。

問題数	準備時間	解答時間
4問	各10秒	各15秒

Part C Telling a Story

[サンプル問題 →](#)

ストーリーを英語で話す

日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力を診断します。

問題数	準備時間	解答時間
1問	Advanced : 20秒 Core : 30秒	Advanced : 60秒 Core : 40秒

Part D Expressing Your Opinion

[サンプル問題 →](#)

自分の意見を述べる

身近なテーマに対して、自分の意見とその意見をサポートする理由が言えているかを診断します。

問題数	準備時間	解答時間
1問	60秒	Advanced : 60秒 Core : 40秒

【ライティング】

1. 自由記述形式の出題

与えられたテーマに対して自分の考えを表現する問題1題を、自由記述形式で出題します。限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力を測定します。問題タイプごとの出題方針は、以下の通りです。

Core…日常生活の中から、個人が経験したことをもとに自分の意見と理由を述べます。

Basic…日常生活と社会との接点を少し持たせつつ、個人の経験や他の事例をもとに自分の意見と理由を述べます。

Advanced…社会との接点を通して、個人の経験や他の事例をもとに自分の意見と理由を述べます。

2. 複数名の採点者による観点別評価

ライティング答案は海外の採点拠点に送られます。1枚の答案はトレーニングを積んだ複数名の外国人採点者によって、まず「意見」、「理由」、そして「語い」、「文法」、「構成・展開」の5つの観点に分けて採点されます。英語で自分のメッセージを的確に相手に伝えることができるかを測ることができます。

3. IRT計算にもとづくスコア算出

出題テーマによる書きやすさ、書きにくさの違いを調整するため、採点者が採点を行った後、IRT※といわれる統計処理を行うことで、ライティングスコアが算出されます。それにより異なる出題テーマであっても同じ指標でスコアを比べることができるようになります。

※ IRT=Item Responce Theory (項目応答理論)

テスト内容	Core		Basic		Advanced	
	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
WRITING / 自由記述式	1	20	1	20	1	20

URL:http://www.benesse-gtec.com/fs/about/ab_content

Table 2. Common Reference Levels: self-assessment grid

		A1	A2	B1
U N D E R S T A N D I N G	Listening	I can recognise familiar words and very basic phrases concerning myself, my family and immediate concrete surroundings when people speak slowly and clearly.	I can understand phrases and the highest frequency vocabulary related to areas of most immediate personal relevance (e.g. very basic personal and family information, shopping, local area, employment). I can catch the main point in short, clear, simple messages and announcements.	I can understand the main points of clear standard speech on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc. I can understand the main point of many radio or TV programmes on current affairs or topics of personal or professional interest when the delivery is relatively slow and clear.
	Reading	I can understand familiar names, words and very simple sentences, for example on notices and posters or in catalogues.	I can read very short, simple texts. I can find specific, predictable information in simple everyday material such as advertisements, prospectuses, menus and timetables and I can understand short simple personal letters.	I can understand texts that consist mainly of high frequency everyday or job-related language. I can understand the description of events, feelings and wishes in personal letters.
S P E A K I N G	Spoken Interaction	I can interact in a simple way provided the other person is prepared to repeat or rephrase things at a slower rate of speech and help me formulate what I'm trying to say. I can ask and answer simple questions in areas of immediate need or on very familiar topics.	I can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar topics and activities. I can handle very short social exchanges, even though I can't usually understand enough to keep the conversation going myself.	I can deal with most situations likely to arise whilst travelling in an area where the language is spoken. I can enter unprepared into conversation on topics that are familiar, of personal interest or pertinent to everyday life (e.g. family, hobbies, work, travel and current events).
	Spoken Production	I can use simple phrases and sentences to describe where I live and people I know.	I can use a series of phrases and sentences to describe in simple terms my family and other people, living conditions, my educational background and my present or most recent job.	I can connect phrases in a simple way in order to describe experiences and events, my dreams, hopes and ambitions. I can briefly give reasons and explanations for opinions and plans. I can narrate a story or relate the plot of a book or film and describe my reactions.
W R I T I N G	Writing	I can write a short, simple postcard, for example sending holiday greetings. I can fill in forms with personal details, for example entering my name, nationality and address on a hotel registration form.	I can write short, simple notes and messages relating to matters in areas of immediate need. I can write a very simple personal letter, for example thanking someone for something.	I can write simple connected text on topics which are familiar or of personal interest. I can write personal letters describing experiences and impressions.

Common Reference Levels

B2	C1	C2
I can understand extended speech and lectures and follow even complex lines of argument provided the topic is reasonably familiar. I can understand most TV news and current affairs programmes. I can understand the majority of films in standard dialect.	I can understand extended speech even when it is not clearly structured and when relationships are only implied and not signalled explicitly. I can understand television programmes and films without too much effort.	I have no difficulty in understanding any kind of spoken language, whether live or broadcast, even when delivered at fast native speed, provided I have some time to get familiar with the accent.
I can read articles and reports concerned with contemporary problems in which the writers adopt particular attitudes or viewpoints. I can understand contemporary literary prose.	I can understand long and complex factual and literary texts, appreciating distinctions of style. I can understand specialised articles and longer technical instructions, even when they do not relate to my field.	I can read with ease virtually all forms of the written language, including abstract, structurally or linguistically complex texts such as manuals, specialised articles and literary works.
I can interact with a degree of fluency and spontaneity that makes regular interaction with native speakers quite possible. I can take an active part in discussion in familiar contexts, accounting for and sustaining my views.	I can express myself fluently and spontaneously without much obvious searching for expressions. I can use language flexibly and effectively for social and professional purposes. I can formulate ideas and opinions with precision and relate my contribution skilfully to those of other speakers.	I can take part effortlessly in any conversation or discussion and have a good familiarity with idiomatic expressions and colloquialisms. I can express myself fluently and convey finer shades of meaning precisely. If I do have a problem I can backtrack and restructure around the difficulty so smoothly that other people are hardly aware of it.
I can present clear, detailed descriptions on a wide range of subjects related to my field of interest. I can explain a viewpoint on a topical issue giving the advantages and disadvantages of various options.	I can present clear, detailed descriptions of complex subjects integrating sub-themes, developing particular points and rounding off with an appropriate conclusion.	I can present a clear, smoothly flowing description or argument in a style appropriate to the context and with an effective logical structure which helps the recipient to notice and remember significant points.
I can write clear, detailed text on a wide range of subjects related to my interests. I can write an essay or report, passing on information or giving reasons in support of or against a particular point of view. I can write letters highlighting the personal significance of events and experiences.	I can express myself in clear, well-structured text, expressing points of view at some length. I can write about complex subjects in a letter, an essay or a report, underlining what I consider to be the salient issues. I can select style appropriate to the reader in mind.	I can write clear, smoothly flowing text in an appropriate style. I can write complex letters, reports or articles which present a case with an effective logical structure which helps the recipient to notice and remember significant points. I can write summaries and reviews of professional or literary works.